

高レベル廃棄物、MOX 燃料の国際 輸送の円滑な実施について

1 これまでの輸送の実績(別紙参照)

- (1) 高レベル廃棄物: 1995 年以来 4 回実施済み。現在第 5 回輸送を実施中。
- (2) MOX 燃料: 昨年第 1 回輸送を実施(東電福島第一発電所及び関電高浜発電所用)。
- (3) その他: 使用済み燃料輸送(1969 年から 160 回以上実施)。

2 使用ルート現状

- (1) パナマ運河ルート
 - ・カリブ諸国からの反発
 - ・パナマ運河の返還
- (2) 南米ルート
 - ・第 1 回高レベル廃棄物輸送(95 年)の際、チリの海軍が 200 海里から退出するよう威嚇する事案あり。
- (3) 喜望峯・南西太平洋ルート
 - ・SPF(南太平洋フォーラム)の諸国から万一の事故の際の損害賠償についての深刻な懸念の示されている状況。

3 輸送沿岸国との関係

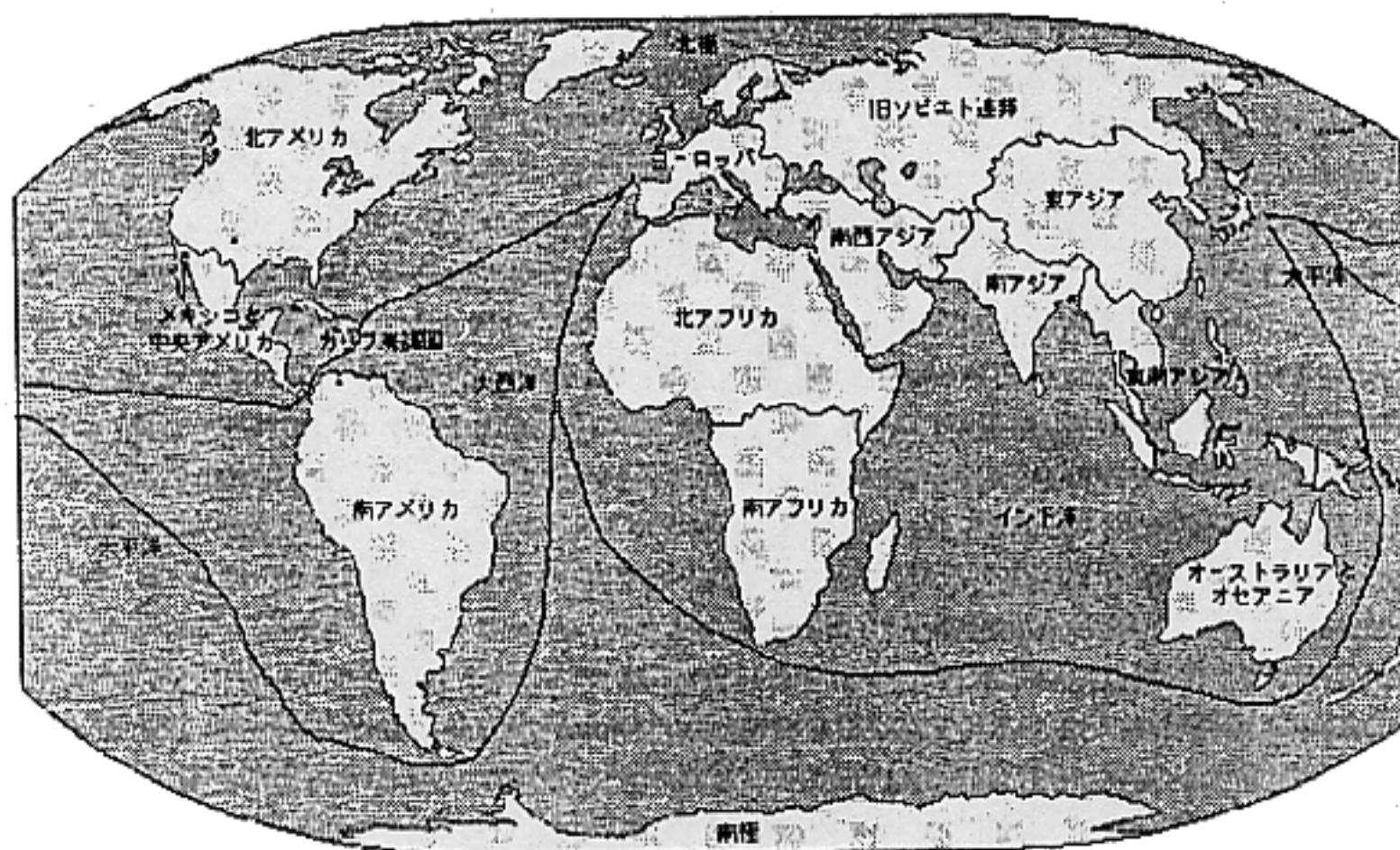
- (1) 二国間関係等への影響
- (2) 国際法上の位置づけ
- (3) 原子力利用国でない諸国の理解を得る困難性
- (4) 各種の不祥事の悲影響

4 課題(注)

- (1) 必要性の説明
- (2) 沿岸国対策の強化

(注) 外交上の働きかけ等の理解促進、英仏による対策勧奨、各ルートのバランスのとれた使用等以外のもの

(参考) これまでの放射性物質の国際海上輸送ルート



パナマ運河ルート	・我が国から欧州への使用済燃料輸送の殆ど ・第3回ガラス固化体返還輸送 ・第4回ガラス固化体返還輸送 ・第5回ガラス固化体返還輸送(実施中)	これまで30年以上、160回以上 1998年1月～3月 1999年2月～4月 1999年12月～ 2000年2月後半(予定)
喜望峰／南西太平洋ルート	・プルトニウム(あかつき丸)輸送 ・第2回ガラス固化体返還輸送 ・第1回MOX燃料輸送	1992年11～93年1月 1997年1月～3月 1999年7月～10月
ホーン岬ルート	・第1回ガラス固化体返還輸送	1995年2月～4月